

「ふくい2030年の姿」における記載について

	ふくい2030年の姿（平成17年3月）	ふくい2030年の姿・II（平成21年3月）
人口構造の変化と日本、福井県の課題	<p><b>【視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少の中で、一人当たりの空間や社会基盤の余裕が生まれてくる</li> <li>・年齢や性別を問わず知識や技術を活かして一人当たりの労働生産性を向上</li> </ul>	<p><b>【視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を中心とした暮らしが地域の暮らしの質にも大きな影響</li> <li>・ライフスタイルに合わせた柔軟な働き方により労働生産性の向上とワークライフバランスを実現</li> </ul>
	<p><b>【基礎データ】（2030年は推計値）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井県の人口：82万2千人（2005年）→70万7千人（2030年）</li> <li>・福井県の平均寿命：男性67.96歳（1965年）→82.16歳（2030年）全国2位</li> <li>・福井県の合計特殊出生率：1.50（2005年）→1.44（2030年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福井県の老年人口：18万6千人（2005年）→23万3千人（2030年）</li> <li>女性72.87歳（1965年）→88.85歳（2030年）全国9位</li> </ul>
	<p><b>【特徴的なデータ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井県の1世帯当たりの人員：4.87人（1950年）→3.07人（2004年）</li> <li>・福井県の労働力人口比率：75.7%（1960年）→64.9%（2000年）</li> </ul>	<p><b>【特徴的なデータ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井県の高齢単身世帯比率：5.7%（2000年）→12.9%（2030年推計）</li> <li>・福井県の一人当たりの労働生産性3,719千円（1975年）→8,940千円（2006年）</li> </ul>
	<p><b>【2030年のふくい】</b></p> <p>○80まで社会参加ー「職持ち」「役立ち」の70代ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康寿命」が全国トップクラスの福井では、「達年※」の就業の場と働きやすい仕組みを全国に先駆けて整備</li> <li>〔※達年：社会の中でアクティブに行動する60歳～75歳までの人のことを指す。「ふくい2030年の姿検討会」の造語〕</li> <li>・75歳頃までは地域活動やボランティア活動などにより社会に「役立ち」</li> </ul> <p>○ノーマイカー交通システムの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車の運転をしない高齢者が増加するため、鉄道、デマンドバス、乗合タクシーなどの交通機関を組み合わせ、車に頼らない交通システムを実現</li> </ul> <p>○ウォーブ都市※ー中心市街地ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地では、集積している公共施設、商業施設、医療施設などの既存ストックを活かし、「歩くことを楽しめるまち」、「多世代が楽しめるまち」として活気を取り戻す</li> <li>〔※ウォーブ都市：「ウォーク(Walk)」と「ムーブ(Move)」を組み合わせた「ふくい2030年の姿検討会」の造語〕</li> </ul> <p>○ライフステージホーム※社会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少による余剰住宅を社会のストックとして循環させるシステムを整備し、ライフステージに応じて住み替える家族が増加</li> <li>〔※ライフステージホーム：「ふくい2030年の姿検討会」の造語〕</li> </ul> <p>○長生き健康生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康的な食生活、適度な運動により生活習慣を大幅に改善し、「平均寿命」、「健康寿命」が世界一になる</li> </ul>	<p><b>【2030年のふくい】</b></p> <p>○健康長寿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の移動、労働、住まい等をサポートするテクノロジーや社会システムの発達により、高齢者が多様な分野で活躍</li> <li>・「地域で高齢者を見守る」姿勢が一人暮らしの高齢者の支えとなり、高齢者は自立した満足度の高い生活を送る</li> </ul> <p>○働き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熟年、達年、老年世代が、家事・育児・介護等のコミュニティビジネスの担い手となり、世代間ワークシェアリングを実現</li> <li>・福井の技術・信用・信頼をコンセプトにした高付加価値のモノやサービスを提供</li> </ul> <p>○まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小型電動の低速型車両（ゴールドンビークル）が普及し、高齢者の安心ドライブが実現。併せて、小型車両専用のスロードライブ車線が設置されるなど、道路空間の再配分が進む</li> <li>・中心市街地では利便性を追求した高齢者向け住宅が整備され、定住人口も回復</li> </ul> <p>○「地域の幸福度（QOC※）」向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・達年世代が中心となり、地域の医療・介護、農業、治安、交通の分野の社会的企業（ソーシャル・エンタープライズ）を設立。得られた利益やノウハウを地域社会に再投資</li> <li>〔※QOC：Quality of Community。地域の暮らしの質を表す指標。「ふくい2030年の姿検討会」の造語〕</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生活サービス機能が地域内に分散配置され、それらがコミュニティ交通によりつながる「コミュニティリビング」を実現</li> </ul>

